

3. 帯広市一般・特別会計予算執行の概要

帯広市一般・特別会計予算執行の概要

1 平成30年度における国の予算及び地方財政について

(1) 国の予算について

平成30年度予算は、我が国財政の厳しい状況を踏まえ、引き続き歳出全般にわたり、聖域なき徹底した見直しを推進するものとして編成された。また、「子育て安心プラン」を踏まえた保育の受け皿整備など「人づくり革命」の推進や「生産性革命」の実現に向けた企業による設備や人材への力強い投資、研究開発・イノベーションの促進など重要な政策課題について、必要な予算措置を講じるなど、メリハリの効いた予算編成を目指すとともに、誰もが自分の夢を追求できる、誰もが自分の能力を伸ばしていく、誰にも居場所があって頑張っていける、そういう気持ちになれる日本を創りあげるため、一億総活躍社会実現の取組を加速させることとされた。

さらには、「経済・財政再生計画」における集中改革期間の最終年度に当たり、同計画に掲げる歳出改革等を着実に実行するとともに、改革工程表を十分踏まえて歳出改革を着実に推進するとの基本的な考え方に立ち、その取組を的確に予算に反映させることとされた。

なお、歳出改革については、経済再生と財政健全化に資するよう、政策効果の高い歳出に転換する考え方に立って、「公的サービスの産業化」、「インセンティブ改革」、IT化などの「公共サービスのイノベーション」という3つの取組を中心に着実に推進することとされた。

(2) 地方財政について

極めて厳しい地方財政の現状及び現下の経済情勢等を踏まえ、歳出面においては、子ども・子育て支援や地方創生、公共施設等の適正管理に対応するために必要な経費を計上するとともに、社会保障関係費の増加を適切に反映した計上を行う一方、国の取組と基調を合わせた歳出改革を行うこととされた。

また、歳入面においては、「基本方針2015」で示された「経済・財政再生計画」を踏まえ、地方の安定的な財政運営に必要な地方の一般財源総額について、平成29年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することを基本として、引き続き生じることとなった大幅な財源不足について、地方財政の運営上支障が生じないよう適切な補填措置を講じることとされた。

2 平成30年度における本市の予算執行について

市長改選期であったことから、当初予算については、社会保障関係経費をはじめとする義務的経費や継続事業を中心とした骨格予算としながらも、補正予算での対応では適切な時期の執行が難しくなる事業については計上するなど、地域経済や市民生活に影響が出ないよう配慮した。

改選後の6月定例議会に向けては、市民の多様なニーズに応え、満足度の高いまちづくりを進めるためには、「フードバレーとかち」のさらなる推進などにより、地域の強みや魅力を活かしながら、個性ある地域を創ることが重要であることから、「夢かなうまち おびひろ」の実現に向け、「全ての市民の幸せ」を基本に据え、政策補正予算の編成にあたった。

また、予算の執行にあたっては、事業の効果が最大、かつ適切な時期に現れ、市民の納得感・満足感を得られるよう、各部各課が使命感を持って計画的な事業実施に努めるとともに、歳入の減少が見込まれる場合には、歳出の抑制など財源不足への対応方針を明らかにするなど、経営感覚を持った執行を心がけた。

この結果、平成30年度における一般・特別会計に係る予算執行の概要は次のとおりとなった。

(1) 一般会計

予算規模は、当初 81,896,000,000 円、前年度当初予算対比 2.3%減の予算を計上した。
その後、政策補正予算及び各般の行政需要、景気動向の変化などに的確に対応するため、3,869,173,000 円の補正予算を計上した結果、前年度からの繰越額 773,923,644 円を含め、最終予算額は 86,539,096,644 円となった。

予算執行にあたっては、市税、国・道支出金をはじめとする財源の捕捉に努めるとともに、経費の節減など、効率的な財政運営に努めた結果、

歳入決算額 81,755,965,795 円（執行率 94.5%）

歳出決算額 80,890,221,098 円（執行率 93.5%）

歳入歳出差引残額 865,744,697 円となった。

なお、翌年度繰越額として 2,125,149,000 円を計上した。

(2) 特別会計

・ 国民健康保険会計

本年度は最終予算額 17,171,405,000 円を計上し、制度改正により、財政運営の主体となった北海道と連携し、適正な医療保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額 16,763,929,142 円

歳出決算額 16,563,343,311 円となり、

歳入歳出差引残額 200,585,831 円を翌年度へ繰り越した。

・ 後期高齢者医療会計

本年度は最終予算額 2,308,897,000 円を計上し、北海道後期高齢者医療広域連合を中心に、適正な医療保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額 2,374,841,086 円

歳出決算額 2,286,908,033 円となり、

歳入歳出差引残額 87,933,053 円を翌年度へ繰り越した。

・ 介護保険会計

本年度は最終予算額 15,025,518,000 円を計上し、適正な介護保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額 14,868,129,227 円

歳出決算額 14,374,442,140 円となり、

歳入歳出差引残額 493,687,087 円を翌年度へ繰り越した。

・ 中島霊園事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 61,704,000 円を計上した。

墓地の貸付と効率的な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、61,496,731 円となった。

・ 簡易水道事業会計

本年度は最終予算額 103,929,000 円を計上し、太平及び大正簡易水道の適正な経営管理を行った結果、

歳入決算額 100,612,479 円

歳出決算額 88,956,669 円となり、

歳入歳出差引残額 11,655,810 円を翌年度へ繰り越した。

- ・ 農村下水道事業会計

本年度は農業集落排水施設の維持管理経費、合併処理浄化槽の工事費等最終予算額 143,599,000 円を計上した。

合併処理浄化槽の工事のほか、農業集落排水施設の適正な維持管理を行った結果、歳入歳出決算額はともに、138,408,578 円となった。

- ・ ばんえい競馬会計

本年度は最終予算額 25,708,310,000 円を計上し、全 151 日のばんえい競馬を開催した結果、

歳入決算額 25,238,858,331 円

歳出決算額 25,170,799,382 円 となり、

歳入歳出差引残額 68,058,949 円 を翌年度へ繰り越した。

- ・ 駐車場事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 83,600,000 円を計上した。

中心市街地における買い物客等の利便を図るとともに、駅北地下駐車場等の効率的な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、83,478,818 円となった。

- ・ 空港事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 908,137,000 円を計上した。

とかち帯広空港の航空機離着陸の安全確保をはじめ、適正な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、884,666,642 円となった。